

令和3年度 学校評価(自己評価・学校関係者評価)報告書

令和 4年 3月 18日
学校法人暁の星学園 高知聖母幼稚園

1. 本園の教育目標

豊かな愛の心を持ち、主体的・積極的に生きる人間性の基礎を育てる

(教育方針)

カトリック精神に基づいた幼児教育を行うとともに、マリア・モンテッソーリの教育指針に沿った人格形成を目指す

(目指す幼児像)

- ・神と人と自然を大切にする子ども
- ・思いやりと感謝の心を持つ子ども
- ・明るく素直な子ども
- ・自分で考え、自分で行動し、責任を持つ子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

モンテッソーリ教育の充実を図り、幼児ひとりひとりを大切にされた質の高い教育の実践を目指す

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	自園の教育目標に沿った保育計画と内容の充実、また保育者としての指導力向上に取り組む	B	<ul style="list-style-type: none">・今年度はリモート研修を通して、モンテッソーリ教育への理解を深めることができた。全職員でM教育の視点から保育を振り返る良い機会となり、園全体の資質向上に向けて保育内容の見直しにつなげることができた。・子ども一人ひとりの個性を理解し、職員全体で情報共有すること、また必要に応じて視覚教材を作成・利用し発達支援に活かすことができた。
2	子育て支援に力を注ぎ、幼稚園が開かれたコミュニケーションの場となるように整備する	B	<ul style="list-style-type: none">・てんしルーム(園庭開放)は、引き続き人数制限を設けての実施となったが、活動内容を工夫することで繰り返し参加して下さる方が多かったと感じる。・保護者向けの母親教室や聖書の勉強会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染状況の悪化により計画通りに実施することが叶わなかった。・コロナ禍で参観等が中止または制限付きになる場合を考慮し、動画配信やお便りなどで園児の姿を少しでも伝えられるよう努めた。
3	安全対策として、特に南海トラフ地震に対する教職員の柔軟な対応能力向上を目指す	B	<ul style="list-style-type: none">・今年度もマリア会(父母会)からの寄付により、園内のヘルメットスタンド設置が完了した。これにより園児のヘルメット着用がスムーズになり、避難訓練でも時間短縮の成果が出ている。・避難訓練では職員が各自臨機応変に動けることを目標に、役割を決めすぎない事も組み込んだ。また、高知会館までの避難経路を全職員で回り、水路やマンホールの位置などを確認し、危機意識を高めることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>今年度は年3回のリモート研修により、園全体でモンテッソーリ教育への理解を深めることができたと感じる。日々の保育をモンテッソーリ教育の視点から振り返ると、今まで当たり前に行ってきた行事が、子どもたちの成長のために本当に必要かどうか、という点についても考え直すきっかけとなった。子どもたちが日々お仕事の楽しさを積み重ね、自分でできる喜びを味わえるような環境を整えていけるよう努めていきたい。</p> <p>コロナ禍においても園と保護者をつなぐコミュニケーションの場として、保護者対象の母親教室・聖書の勉強会を計画したが、感染状況の悪化により1回ずつの開催にとどまった。てんしルーム(園庭開放)は感染対策の徹底と人数制限を設けての開催により、小規模ながら繰り返し足を運んでくださる方が多かった。今後も活動内容を充実させ、魅力ある場所を提供していきたい。</p> <p>南海トラフ地震対策として、今年度はヘルメットスタンドの設置が完了し、園児の避難誘導の時間が短縮できた。また、訓練時は職員の役割を決めすぎず各自が臨機応変に動けることを意識することにより、危機意識の向上につながった。しかし、大地震の備えとしてはまだまだ不十分な点があり、来年度に向けてより細やかな準備と訓練の必要性を感じた。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	モンテッソーリ教育に即した保育計画と内容の充実、また、教職員の資質向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の在り方を見直し、子どもたちが自己を発揮できるよりよい環境を整えていく。 ・モンテッソーリ教育を基盤に、「幼児期に育てほしい10の姿」を具体的に保育計画に織り込んでいく。 ・教職員はモンテッソーリ教育の研修会に参加し、園全体・個人において資質の向上に努める。園内研修についても、十分な時間を確保していく。
2	保護者とのよりよい関係づくりを大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との日々の出会いを大切にし、園での子どもの姿について自然に会話が弾む関係づくりを目指していきたい。 ・引き続きコロナ禍における園行事等の在り方を工夫し、保護者が安心して子どもを預けることのできる環境を整えていく。 ・保護者の立場に立った情報発信の仕方を工夫する。
3	南海トラフ地震対策の強化と、職員の対応能力の向上、また園児自身の安全意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練においても、非常災害時を常に意識した行動がとれるよう職員の連携を強化する。 ・自園の南海トラフ地震対応マニュアルを見直し、様々な場面に対応できるようにする。 ・引き渡し訓練等、未実施の事項についても取り組んでいく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・幼稚園はコロナ禍で制限が多い中、できる限りの取り組みが行われたと感じる。参観日等の行事が中止になった際は、動画配信で子どもたちの様子を保護者に伝えていた。今後も引き続き期待したい。
- ・幼稚園では避難訓練を定期的実施しており、園児自身の防災意識も高いと感じる。日頃の取り組みの成果が出ているのではないだろうか。
- ・保護者との交流では、今後更に子どもたちのエピソードが聞ける機会が増えるよう、工夫がされる事を期待している。